

平成29年度 後期 学力向上を図るための全体計画

学校名 墨田区立押上小学校
校長 根来 郁明

1 学力向上に関する特徴

(1) 平成29年度区学習状況調査結果から

- ① 国語
 - ・2・3・5・6年生は、全観点で目標値を上回っている。(全国平均を14/25 上回っている。)
 - ・4年生は、「読む力」以外で目標値を下回っている。「読む力」は9.8ポイント上回っている。
- ② 社会
 - ・5・6年生は、全観点で目標値を上回っている。(全国平均を4/8 上回っている。)
 - ・4年生は、全観点で目標値を下回っている。
- ③ 算数
 - ・4年生は、全観点で目標値を上回っている。
 - ・6年生は、全観点で目標値を下回っている。
- ④ 理科
 - ・4年生は、全観点で目標値を下回っている。
 - ・4・6年生は、「観察・実験の技能」が目標値を大きく下回っている。

(2) 普段の授業の様子等から

- ① 普段の授業
 - ・説明、講義中心の授業が多く見られる。
 - ・積極的にICT機器を積極的に活用している。
 - ・学習規律及び学習遅滞児の対応に指導の重点が置かれている。
- ② 国語
 - ・校内研究を通して、友達と考えを交流し、より考えを深めていく授業を目指している。
- ③ 算数
 - ・理解不十分なまま授業を終えている児童が多い。

2 平成29年度【前期】授業改善の取組(方策)の実施状況(どの方策がどの程度実施できたか)

学力D層・E層の児童数を昨年度より減少するための取組
▲3～6年の算数で習熟度別学習を実施している。 → 学習内容の定着は不十分である。 ○毎週金曜日朝学習・土曜日3校時「ステップ学習」を実施、全学年で学習内容の定着を図っている。 ○毎週1回「放課後すみだ塾」で、3～6年生の算数の補充学習を行っている。
「読む能力」を育成するための取組
○毎週水曜日「読み聞かせ」、毎週火曜日「朝読書」を実施、全学年で「読む力」の育成を図っている。
「思考力・判断力」を育成するための取組
▲各教科で問題解決型授業を展開する。 → 説明、講義中心の授業が多く、不十分である。 ○校内研究(国語)を通して、「話す力・聞く力」の育成を図っている。
学習意欲を高める取組
○1日1回以上、ICT機器を活用し、興味・関心を高める導入を行っている。

3 平成29年度 後期における学力向上に関する具体的な取組

(1) 学校全体で組織的に取り組んでいくこと

- ① 「わかる授業」「意欲を引き出す授業」の実施
 - ・意図的計画的に「週の指導計画」を作成し、本時のねらい(身に付けさせたい内容)を明記する。
 - ・1日1回以上、ICT機器を活用した授業を行い、興味・関心を高める導入を行う。
 - ・自分の考えを表現し、友達と意見を交流して考えを深める等、話し合い活動を行う。
- ② 現学年で身に付けるべき学習内容の確実な定着
 - ・各教員が授業改善計画を作成し、改善策を実施する中で、各教科の課題を改善していく。
 - ・学力向上推進委員会で、「ステップ学習」や「放課後すみだ塾」の指導内容を検討する。
- ③ 校内OJTによる指導力の向上
 - ・学年会で指導計画や授業準備の確認を行い、若手教員の指導力向上を図る。
 - ・主幹教諭、主任教諭をOJT担当者として、学力向上につながるポイント等の研修を行う。

(2) 特定の学年や特定の教科において取り組んでいくこと(学年や教科を明記する)

- ① 3年生・社会：地域の人々の生産や販売
 - ・生産や販売の様子を見学し、そこで働く人々の努力や工夫について具体的に考える。
 - ② 5年生・算数：小数の計算、平面(立体)図形の性質
 - ・小数の計算の仕方を身に付ける。図形の作図や作成等の活動を通して、図形の性質を見付ける。
 - ③ 3年生・理科：昆虫、太陽と地面の様子、ゴムの働き、光の性質、磁石の性質
 - ・観察や実験を通して、自然の事物・現象の差異点や共通点に気付いたり、比較したりする場を設ける。
 - ④ 5年生・理科：物の溶け方、振り子の運動、植物の発芽・成長、天気の変化、顕微鏡の使い方
 - ・観察や実験を通して、生命の連続性や物の変化の規則性に気付いたり、検討したりする場を設ける。
- ☆ 学習内容の定着が不十分な場合、基本的に前学年での指導に課題があったと考える。
→ 年間指導計画や単元配列表、行事の見直し、教員の指導力等を検討する。

4 3の取組の成果指標と具体的な目標

成果指標(成果があったかどうかをどのように判断するか)	具体的な目標(できるだけ数値化する)
○墨田区学習状況調査の活用 → DE層が減少する。 ・正答率の低い問題を繰り返し学習する。 ・類似問題を繰り返し学習する。	○全体の底上げ。 ・全国平均を上回る。 ・6年算数、理科は30%以内。
○東京ベーシックドリルの活用 → 正答率が増加する。 ・診断テストを実施する。	○基礎的基本的な学習内容の定着。 ・5・6年算数は70%以上。
○学校関係者評価等による評価 → 肯定的評価が増加する ・学校外部からの意見により教員の意識を変える。 ・学校公開等の保護者アンケートから教員の意識を変える。	○授業規律の徹底。「わかる授業」の実施。 ・肯定的評価は85%以上。

5 平成30年度の区学習状況調査の目標(D・E層の割合をどれだけにするか)

(新3年) 国語… 20%	算数… 30%
(新4年) 国語… 20%	社会… 30% 算数… 25% 理科… 30%
(新5年) 国語… 20%	社会… 30% 算数… 25% 理科… 30%
(新6年) 国語… 20%	社会… 25% 算数… 30% 理科… 30%